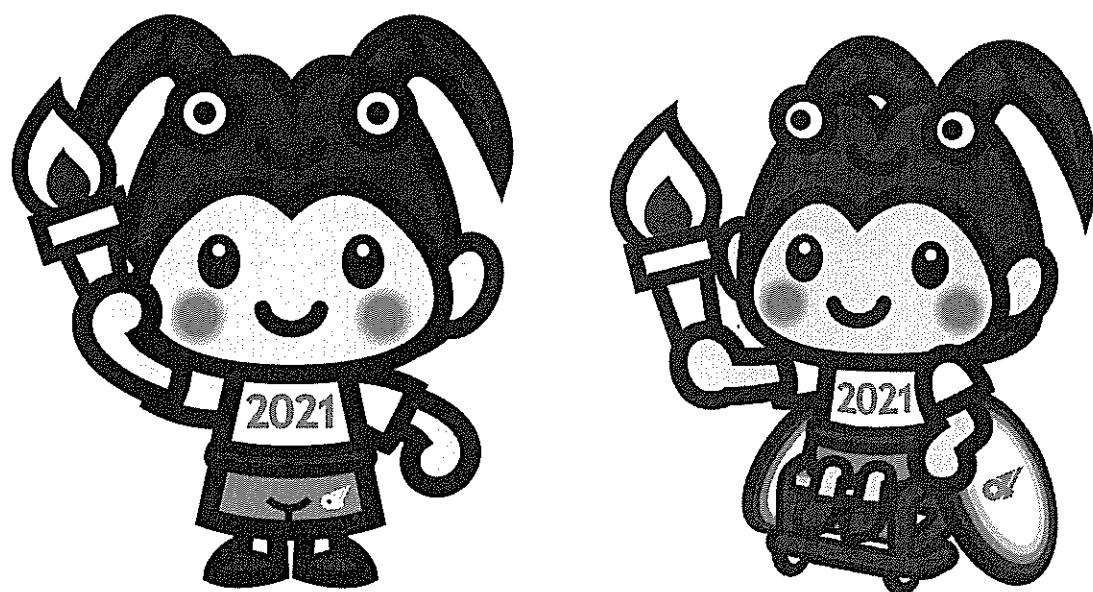


# 三重県競技力向上対策本部

## 第8回本部会議



令和2年6月1日（月）

ホテルグリーンパーク津



## 三重県競技力向上対策本部 第8回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第8回本部会議式次第	P 3
○ 報告事項	
（報告事項1） 委員の変更	P 7
（報告事項2） 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P 8
（報告事項3） 第74回国民体育大会に係る総合成績	P 11
（報告事項4） 令和元年度補正予算の専決処分	P 12
（報告事項5） 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要	P 13
（報告事項6） 三重県競技力向上対策本部第13回競技力向上対策委員会に係る概要	P 20
（報告事項7） 三重県競技力向上対策本部第14回競技力向上対策委員会に係る概要	P 23
（報告事項8） 三重県競技力向上対策本部第14回競技力向上対策委員会の審議 決定事項	P 25
（報告事項9） 令和2年度暫定予算の専決処分	P 57
○ 審議事項	
（第1号議案） 令和元年度事業報告（案）	P 60
（第2号議案） 令和元年度収支決算（案）	P 64
（第3号議案） 令和2年度事業計画（案）	P 66
（第4号議案） 令和2年度収支予算（案）	P 68
○ その他	
（情報共有事項1） 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備状況について	P 71



# 三重県競技力向上対策本部 第8回本部会議 式次第

令和2年6月1日(月)  
朽木グリーンパーク津6階 藤・萩・橘の間

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

- (報告事項1) 委員の変更
- (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- (報告事項3) 第74回国民体育大会に係る総合成績
- (報告事項4) 令和元年度補正予算の専決処分
- (報告事項5) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要
- (報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第13回競技力向上対策委員会に係る概要
- (報告事項7) 三重県競技力向上対策本部第14回競技力向上対策委員会に係る概要
- (報告事項8) 三重県競技力向上対策本部第14回競技力向上対策委員会の審議決定事項
- (報告事項9) 令和2年度暫定予算の専決処分

## 4 審議事項

- (第1号議案) 令和元年度事業報告(案)
- (第2号議案) 令和元年度収支決算(案)
- (第3号議案) 令和2年度事業計画(案)
- (第4号議案) 令和2年度収支予算(案)

## 5 その他

- (情報共有事項1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備状況について

## 6 閉 会



# 報 告 事 項





## 委員の変更

	選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
委員	県議会関係	三重県議会議長	日沖 正信	中嶋 年規
	市町関係	三重県市長会会長	櫻井 義之	鈴木 健一
	教育関係	三重県教育委員会教育長	木平 芳定	廣田 恵子
	産業・経済関係	三重県商工会議所連合会会長	種橋 潤治	岡本 直之
	学校・スポーツ 団体関係	三重県中学校体育連盟会長	山口 勉	中西 裕之
	学校・スポーツ 団体関係	三重県高等学校体育連盟会長	野垣内 靖	阿形 克己

## 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

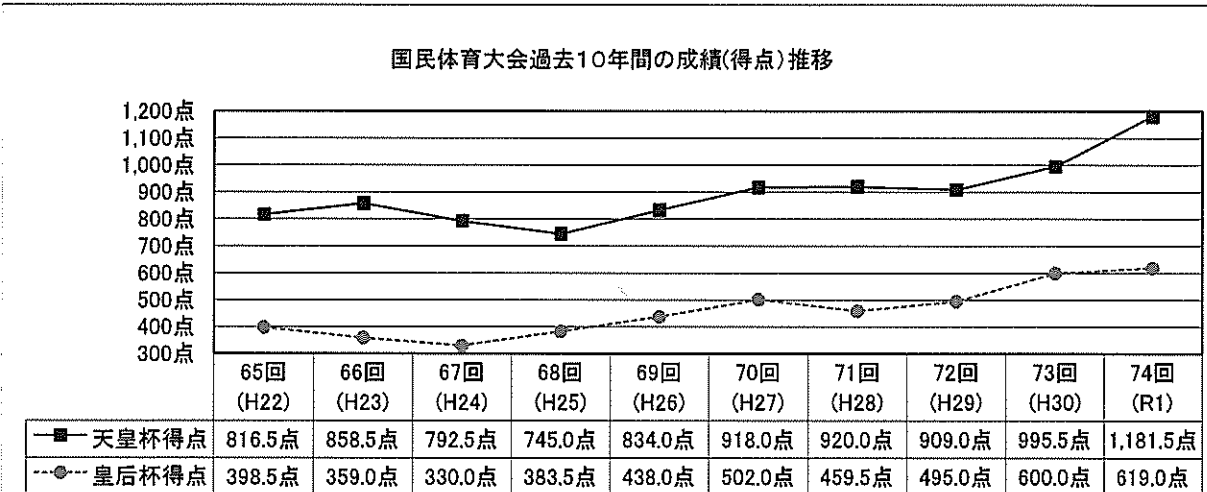
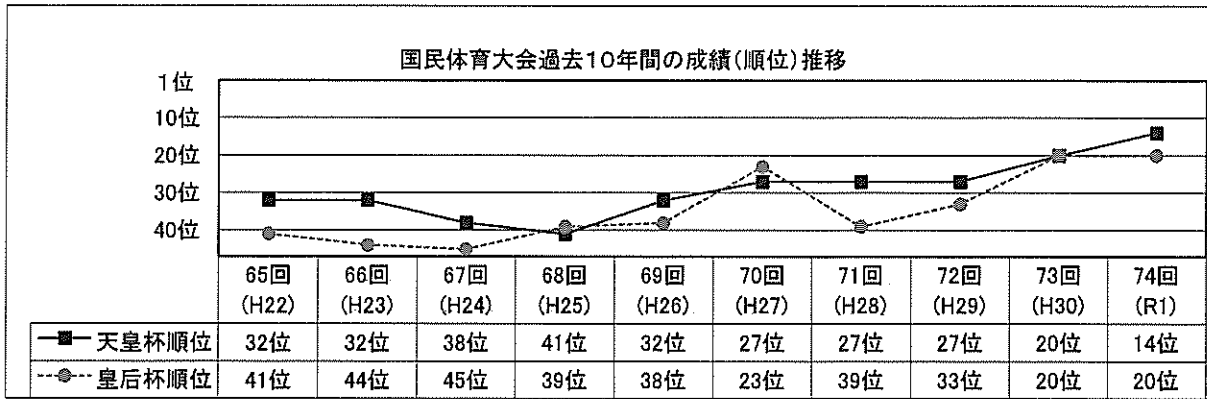
年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第7回本部会議」を開催しました。
令和元年 10月28日	三重県競技力向上対策本部「第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第7回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月 1日	三重県競技力向上対策本部「第7回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月21日	三重県競技力向上対策本部「第13回競技力向上対策委員会」を開催しました。
令和2年 2月20日	三重県競技力向上対策本部「第14回競技力向上対策委員会」を開催しました。

第74回国民体育大会に係る総合成績

報告事項3



男女総合成績競技別一覧

女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
2	テニス	63.0	10.0	73.0
2	ウエイトリフティング	81.0	10.0	91.0
5	サッカー	64.0	10.0	74.0
5	アーチェリー	27.0	10.0	37.0
6	セーリング	33.0	10.0	43.0
6	ラグビーフットボール	40.0	10.0	50.0
6	ボウリング	43.0	10.0	53.0
8	ハンドボール	37.5	10.0	47.5
8	馬術	37.0	10.0	47.0
8	フェンシング	24.0	10.0	34.0
10	レスリング	36.0	10.0	46.0
10	ソフトテニス	30.0	10.0	40.0
10	弓道	33.0	10.0	43.0
12	陸上競技	63.0	10.0	73.0
13	体操	15.0	10.0	25.0
14	卓球	7.5	10.0	17.5
14	ソフトボール	20.0	10.0	30.0
15	剣道	12.5	10.0	22.5
15	スキー	7.0	10.0	17.0
17	スポーツクライミング	18.0	10.0	28.0
18	空手道	6.0	10.0	16.0
18	なぎなた	3.0	10.0	13.0
20	水泳	38.5	10.0	48.5
23	スケート	10.0	10.0	20.0
27	カヌー	18.0	10.0	28.0
28	ボクシング	2.5	10.0	12.5
29	ライフル射撃	7.0	10.0	17.0
30	自転車	5.0	10.0	15.0
小計	28競技(競技得点あり)	781.5	280.0	1061.5
	12競技(参加得点のみ)		120.0	120.0
	40競技	781.5	400.0	1181.5

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	サッカー	64.0	10.0	74.0
2	ボウリング	43.0	10.0	53.0
4	テニス	21.0	10.0	31.0
4	ハンドボール	37.5	10.0	47.5
5	ウエイトリフティング	15.0	10.0	25.0
5	馬術	15.0	10.0	25.0
9	レスリング	2.5	10.0	12.5
10	ソフトテニス	15.0	10.0	25.0
10	ソフトボール	20.0	10.0	30.0
12	アーチェリー	6.0	10.0	16.0
12	スキー	4.0	10.0	14.0
14	セーリング	8.0	10.0	18.0
18	なぎなた	3.0	10.0	13.0
23	カヌー	6.0	10.0	16.0
32	陸上競技	9.0	10.0	19.0
小計	15競技(競技得点あり)	269.0	150.0	419.0
	20競技(参加得点のみ)		200.0	200.0
	1競技(不参加)		0.0	0.0
	36競技	269.0	350.0	619.0

## 令和元年度補正予算の専決処分

## 令和元年度補正予算

## 1 収入

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	備考
負担金	297,706	900	298,606	三重県負担金
収入合計	297,706	900	298,606	

## 2 支出

(単位:千円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	備考
会議費	3,893		3,893	
チームみえジュニア指定、保護者・研修プログラム事業	1,500		1,500	
トップジュニア育成事業	4,500	900	5,400	指定選手増 (15名→18名)
チームみえ国体選手強化事業	189,231	△ 3,670	185,561	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業へ付け替え
女性アスリートタレント発掘・育成事業	10,000		10,000	
大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	15,000	3,670	18,670	チームみえ国体選手強化事業から付け替え
東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	2,300		2,300	
トップアスリート応援事業	3,800		3,800	
みえのアスリート応援・発信事業	3,500		3,500	
チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	63,967		63,967	
事務局費	15		15	
支出合計	297,706	900	298,606	

## 三重県競技力向上対策本部第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会に係る概要

令和元年10月28日(月)  
三重県栄町庁舎第51会議室

## (1) 国体で勝てる少年選手の獲得と強化活動の確保(指導者・時間・場所)について

- セーリング競技では今回少年種別で一定の成果を出せた。ただ、女子は絶対数が少なく選手獲得に現場は限界を感じている。体験会も行っているが選手獲得においては効果があまりない。女子選手の県外選手の獲得も試みている。未経験者でもいいので実際に中学校に行って交渉するとか、他県ではタレント発掘事業で体力測定を実施し個々の適正にあった競技を指定していると聞いているので三重でも体力測定会を実施してほしい。
- 愛知県でもタレント発掘事業を実施し体力テストを行ったところ、かなりの人数が集まったと聞いた。
- 選手獲得については今がぎりぎりの時期。自分の学校では強化指定が3部あるので県外枠が前期5%、後期5%となると前期6人、後期6人になる。後期枠では県外から来てもらう選手にとって意味がないので、そこは変えてほしかった。
- 今、県外の選手を取り合っている状況で望んでいることは、県外選手に今年度からはじめたトップアスリート応援事業を継続してもらいたい。来てくれたらこういった支援もしていただけると相手に伝えることができる唯一の方法である。
- 10月1日から高校から中学校へ足を運んでもらって、熱心に勧誘をしてもらっている。ソフトボールはレギュラーが9人であるが数は力であると聞くように有力選手はもちろんであるが練習や競い合う観点からもある程度の人数がほしい。今が本当に選手獲得の最終段階であるので粘り強く最後の一押しをして食欲に1人でも多く選手獲得をしたい。
- 女子の団体種目でも点が取れていない。例えばバレーボールだったら、12月に都道府県対抗の中学生の有力選手を集めた全国大会がある。その選手を可能な限り強化指定校に集められたらいいのではないか。早い目にチームの意識づくりをする必要がある。

## (2) 運動部活動を取り巻く環境への対応(働き方改革・部活動ガイドライン)について

- 中学校については、各市町や校長会で対応が異なるが多くの学校で時間制

限が設けられている。中学生をそのまま部活動で強化するのは限界がある。様々な練習機会を工夫して取り組んでいる場合もあるので、補償など安心して指導できるシステムを構築してほしい。

- ソフトボールは、競技団体から強化選手を指定し学校に書類を送ってもらっていた。中学校3年生の引退から高校入学までの間も二か月に一度ぐらい強化練習会があったので学校から特別に毎日練習に参加させてもらった。毎日少しでも練習をやれる環境を作ってやるのが大切。
- 部活動ガイドラインでは個人の活動まで制限をかけることはできない。学校側に国体の活動であるというお墨付きを出してもらえると自信を持って動きやすい。時間の確保だけでという事であれば学校の部活動と違う活動にすればよいが、違う立場で活動するときの補償をしてあげてほしい。
- 働き方改革や部活動ガイドラインについて、高校現場は今のところ大きな変化は感じない。対応は学校や校長先生のスタンスによって違っている。
- 自分の学校では、時間外の中身の精査について検討されている。45時間の時間外の上限が示されたので調整が難しい。
- 平日は、18～19時の間に部活を終わっているので終了時間については、あまり気にならない。それよりも土、日活動が続いた時は、月曜日がしんどい。月曜日休むと他の先生に迷惑がかかるので休めない。
- 土、日の対応については、局としても教育委員会との調整をスタートしたばかりで、競技団体の強化活動として住み分けをしていくとよい。それをどういう形の制度設計をするかが課題である。
- 競技団体の強化活動への参加は、個人の判断によるものであり、学校活動の範囲外である。指導者の旅費や報償費をどうカバーするか。兼職兼業を認めるなど、どのようにフォローするかが大切。
- 大会などへの参加に対して職務として認めてくれない校長がいるので校長会への働きかけをしてほしい。
- あと2年で何ができるか。今までの概念で考えては何もできない。例えば、外国人指導者を招くなど既存の事業に頼るのではなく、既存の事業の中でどう工夫していくかが課題である。

### (3) 運動部活動を取り巻く環境への対応（働き方改革・部活動ガイドライン）について

- 公欠のことについても強化活動への理解をもっと示してほしい。今年の茨城県も学校によって校長の対応が違ったと聞いた。9月に入ってある学校では3限授業後昼食をとり、その後部活ができる学校もあったり、県外遠征でも4限後でないとダメだったり学校長の裁量によって変わっていた



- と聞いた。特にいくつかの学校の選抜チームであると困ることが起こる。
- 指導者の授業時間の軽減についても今つけてもらっている時間を増やしてもらえると助かる。
  - 国体の組み合わせは一切いじれないが、今年の茨城国体では同じ審判が茨城県の試合を担当したと聞いた。審判によって基準も異なるため、審判などを招請し、指導をしていただくための支援をしてもらおうとありがたい。
  - ホテル（宿舎）についても監督の希望に合わせて配宿してほしい。開催県なのに機械的に配宿されたりすることもある。練習場所や時間についても開催県の運営再度から、公平に割り振りは決まっているので特別なことはできないと言われたと聞いた。開催県なので地の利を活かすためにも練習場所や時間の確保も配慮してほしい。
  - 少年の目標得点は何点だったか書かれていないので、なぜそこに到達できなかったのかを議論できていない。
  - コーチアカデミーの受講者についても 1 期生と 2 期生の雰囲気の違いはどうか。昨年と同じぐらいの意識醸成ができているか。
  - 今年の茨城国体では、鹿児島県は 610 数人の選手団で三重県は 470 数人であったが、三重の方が順位は 1 つ上であった。数は力であると言うがコストパフォーマンスは良かった。ただ、ここから上に行くのが大変。

## 三重県競技力向上対策本部第7回企業等連絡調整専門委員会に係る概要

令和元年10月30日(水)

三重県栄町庁舎第51会議室

## ○躍進期における競技力向上対策事業の取組について

- ・多くのアスリートを就職支援するにあたっては、アスリートの悩み相談やカウンセリングが受けられるなど三重県としてアスリートをサポートする仕組みが必要ではないか。他県との差別化にも繋がると思う。相談相手などきめの細かいことをやっていかないと、折角採用した人が辞めてしまうことになりかねない。
- ・三重県に就職するとアスリートに寄り添った対応をしていただけるということが口コミで広がるといいのではないか。鹿児島に行くか、三重に行くか迷っているアスリートが三重を選ぶことに繋がるのではないか。
- ・選手側からすると会社全体から応援されていると感じれば、練習にも気合が入ると思う。会社から変な目で見られてると感じれば、全く練習に身が入らないなどモチベーションに影響するのではないか。企業側にもある程度責任がある。アスリートを採用した以上は、企業をあげて応援しないといけないのではないか。選手のここぞという時の一発の力に繋がるのではないか。
- ・企業側に採用したことによるメリット感を打ち出せないか。すごい企業でありながら、あまり表に出てこない企業もある。選手側も企業の特徴を理解して、魅力を感じて三重に来て欲しい。地元の企業を攻めるなら経営者から攻めるべきだと思う。
- ・経営者と若い世代と価値観が違う場合があるので、アスリートが一番重視していることをおさえる必要がある。
- ・同じ競技のチームの中でも選手によって価値観が違う。競技が終わっても企業に残りたいという選手もいれば、競技が終わったら新たな道へ進みたいと考えている選手もいる。練習時間については、午前は勤務し、午後からは練習できるという選手がいて、同じチームの他の選手からもそうして欲しいということになる。選手の希望にどこまで応えてあげられるかという課題がある。
- ・選手の間で待遇の差による不満や微妙な感情を持つことがある。監督やスタッフがしっかりしている競技では、スカウト担当以外の監督等が選手に対し、フォローやアドバイスができる。監督は兼任ではなく、フォローやアドバイスができる余裕を与えることも必要ではないか。競技者にとっては、監督の言葉は大きく、監督が選手をコントロールできる。
- ・東京オリンピックを控え、選手自身が練習環境を変えたくないで、東京から離れなくなる傾向が強くなっている。スポーツ指導員であれば、練習環境を変えなくても良いというのは非常に魅力的だと思う。スポーツ指導員を如何に有効に使うかを考えるべきである。
- ・スポーツ指導員は、団体種目で上位入賞が難しいと見込まれる競技よりも、個人種目や2～4人種目の競技に充てるなどメリハリをつけるべきではないか。
- ・40代未満の指導者も含め、土日休みのゆとり教育で育った選手を獲得するにあたっては、企業ファーストだけでなく、選手が何を望むのかを聞いてあげないといけないのではないか。選手の要望をもう少し聞きながら、就職支援を進める必要があるのではないか。

- ・東京から三重に来たアスリートは、環境ががらっと変わることになる。アスリートの心の琴線に触れるような対応をしていただけると、三重は温かい対応をしてくれるという売りになるのではないかな。
- ・若い人の価値感の多様性がある中で、性格分類をして、特性を見極めて対応するという手法がある。スカウト担当も人によって、価値観が違うというところを見極めて、対応する必要があるのではないかな。
- ・選手に寄り添うということは、マッチングの時と就職してからの大きく二つがある。選手が職場で応援してもらうには、職場で可愛がられていないといけない。その一番の前提は、きちんと挨拶ができるかということと、試合等の報告がしっかりできるかだと思う。選手に対しての指導・教育も必要ではないかな。それをしないと三重とこわか国体後の三重のスポーツは駄目になると思う。寄り添うということは、厳しく指導するというのも寄り添う一つかと思う。
- ・三重とこわか国体後のレガシーを残すためには、今からしっかりと仕組みづくりや取組を進めないといけない。
- ・寄り添うということは選手の声聞いて、如何に世話を焼くかが大事だと思う。

## 三重県競技力向上対策本部第7回成年選手強化専門委員会に係る概要

令和元年 11 月 1 日（金）  
三重県栄町庁舎第 51 会議室

## ○躍進期における競技力向上対策事業の取組について

- ・団体競技については、企業チーム単体、クラブチーム単体、選抜チームなど種別によって様々であるが、今の体制が勝てる体制なのか、また、今の体制を維持するのであれば何をすれば勝てるのか、精査をする必要がある。また、目標を明確にすることも必要である。
- ・企業チームについては、茨城国体では、ラグビーフットボール競技成年男子でホンダヒートが単体で出場し、優勝という結果が出た。県競技力向上対策本部から企業に出向き、依頼することも必要である。
- ・三重県には企業チームが少ない。クラブチーム、選抜チームには練習環境を整える支援が必要であり、市町等への会場使用についての働きかけも必要である。
- ・資金がそれほど潤沢ではない中で、全国から優秀な指導者を招聘する必要がある。トップレベルの選手を獲得したいという思いはあるが、競技団体では資金的に難しい部分もあるので、県競技力向上対策本部からの支援があるとありがたい。
- ・選手を採用した企業に何らかの補助金等があるとありがたい。雇用形態は、勤務軽減やプロ契約など、選手に応じて考える必要がある。三重県には競技人口が多いバスケットボール競技など、企業チームがない。地元の強豪高校のOB、OGを集め、強化費等の支援をすることにより、選手が集まりやすくなるのではないかと。
- ・競技継続の意向のある高校生については、大学に進学するケースが多い。地元の企業等に残るのは競技を退く選手が多い。今までは競技を続けられる環境が地元にはなかったため、地元で競技を続ける発想がなかった。環境を整えてもらえれば、変わるかもしれない。
- ・競技志向の社会人チームが少なく、企業チームならあるが、そこに高卒を入れるところは少ない。
- ・茨城県が多くの競技で得点を獲得した。その理由についての詳細な分析が必要であり、今の三重県がすべきことが見えてくる。
- ・茨城県が得点を伸ばした理由としては、団体競技では、筑波大学単体もしくは主体のチームの活躍や、日立系列の企業チームの活躍があった。三重県の成年女子では、ボウリング、テニスなどは選手獲得によりトップレベルの選手が活躍するなど、既にうまく獲得できた競技については結果が出つつある。さらなる選手の獲得が必要であり、大学3年生への声掛けも必要である。

- ・茨城県について、福井国体では筑波大学や日立系列の選手が何人出場していたか、茨城国体では何人の選手が出場していたか、など詳細な分析が必要である。
- ・これまでしばらくブロックを通過していない競技については、今更育成では間に合わないので、選手獲得が必要である。
- ・各競技の目標はどこに定めているのか。明確な目標を持っていないと、選手も集まらないのではないかと。また、その目標を目指すためにどのような選手を獲得するのか。三重国体でベスト8を目指しているチームは、入賞を逃す可能性がある。
- ・勝たせるための戦略的な予算付けが必要である。ただ単に強化費で支援するのではなく、天皇杯を獲得するための戦略が必要である。鹿児島県が今年の状態から来年に向けてどのような戦略をしていくかにも注目する必要がある。
- ・鹿児島県にも鹿屋体育大学がある。三重県には体育系の大学がないので、その点は不利な面である。福井県には強化費が潤沢にあった。福井県、茨城県、鹿児島県は、あまり参考にならないのではないかと。三重県は最後の1年で踏ん張れる力はないかもしれない。
- ・教員の採用については、テクニカルな部分があるので、競技団体の意見も取り入れながら、県教育委員会と連携する必要がある。
- ・目標設定については、楽観値から悲観値までである。それぞれの競技において、悲観値で天皇杯・皇后杯に向けてどのくらいの位置にいるのか確認する必要がある。現実的には参加点が目標になってくる競技が出てくる可能性もある。
- ・鹿児島国体の獲得得点の想定を作ってみるといいのではないかと。また、ブロック大会がない場合の想定も考えてみるといいのではないかと。それによって三重国体までに必要な戦力補強が見えてくるのではないかと。
- ・必達目標得点は、最低限獲得する必要がある得点であるため、競技団体の気が緩まないよう、あくまで目指すところは高い位置で保っておく必要がある。

## 三重県競技力向上対策本部第13回競技力向上対策委員会に係る概要

令和元年11月21日(木)  
ホテルグリーンパーク津 安濃の間

## (1) 成年種別について

## ① 選手の練習環境の整備について

- ・練習場所の確保が課題。県や市の体育館を借りてやっているが、改修等で使えないことがあり、練習場所の確保に苦慮している。これからの強化においては練習量や練習試合を増やしていく必要があり、場所の確保が重要になってくる。
- ・勤務時間や休日が所属企業によってバラバラであるので、すべての選手が日程をそろえるのは大変だが、国体が近づいてきて、企業の理解が高まってきている。それは粘り強くお願いを続けてきた結果、またチームが力をつけてきた結果であると思う。
- ・廃校となった学校の体育館を練習会場として使ってもらってはどうかという取組をしている。ただし、地域のスポーツ活動でも利用の要請がたくさんあるのが現状。廃校となった体育館については、県の強化チーム等には優先利用してもらっている部分もある。
- ・県立学校の体育館については、少年だけでなく成年種別のチームについても使用していただいている。10月からは使用料がいるようになったが、減免措置を検討している。強化チーム等については使用料免除の方向で検討している。
- ・体育館については、様々な競技で使用している。土日は公共の体育館がほとんど埋まっている状況。県内での土日の練習場所の確保に非常に苦慮している。
- ・「国体の日」のような日を設定し、公共施設の優先利用が出来るようにしてもらえると強化も進みやすいのではないかと。また、国体のPRにもなるのではないかと。

## ② 最後の選手獲得に向けて

- ・柔道競技においては、日本トップレベル、オリンピックレベルの有力選手の獲得が進んでおり、さらなる獲得に向けて動いている。ただし、来年のブロック大会にオリンピック選手が出てもらえないことが考えられるため、来年のブロック突破が難しくなってしまうことも考えられる。

## (2) 少年種別について

## ① 練習環境の整備について

- ・インターハイは学校対抗、国体は県での選抜チームになる競技もある。学校の強化と選抜チームの強化の切り替えが難しい部分もある。
- ・部活動ガイドラインにより、遠征等に関する縛りが出てきてしまい、県外での強化活動が難しくなってしまった。全国で勝つことを目標にしている選手のためにも制度の見直しをお願いしたい。

- ・県選抜での強化練習に耐えうるサイズの体育館等の使用に関しては、他の使用などで予約が入っていたりして、使用できないこともある。何か配慮していただくと強化もしやすくなる。
- ・練習環境の整備が重要。また、アドバイザーも重要。特に少年についてはその起用が重要であるのではないか。

## ② ターゲットエイジが勝つためのチームづくりについて

- ・ターゲットエイジについては来年度入学してくる選手が最後のチャンスである。11月現在においては、ほぼ有力選手の進路は決まっているのではないかと。有力選手がいないと、どれだけ練習をしても優勝することは難しい。したがって、有力選手の確保と共に、全国の有力選手の動向をつかむ必要がある。
- ・U16のサッカーにおいては、今年の中2が最重要。県外選手の入学について制度化されたが、後期で県外有力選手が入学してくることは考えられない。前期と後期の仕分けについては学校裁量にしてほしい。
- ・アドバイザーについて、少年については、メンタル的にも不安定な時期なので、監督やアドバイザーと選手との関わり方が重要。頻度や人選をしっかりと考える必要がある。
- ・ボート競技において、中学校でいい成績を収めている選手がいるが、高校から育成可能な競技であるため、逆に県外の初心者に逆転される可能性もある。従って中学校でいい選手がいるからといって、油断は出来ない。常駐のアドバイザーがないため、定期的にこちらから出向くことも考えていく必要がある。
- ・大学の先生に限らず、審判員についてのアドバイザー契約も有効ではないか。民間のクラブや個人とのアドバイザー契約ができるといいのではないかと。指導以外に選手獲得の面でもメリットがある。
- ・オリンピックの戦力分析に対する実績がだいたい7割程度。かなり三重県の分析も精度が上がってきている。
- ・これまでにメダルを取ったことのなかった競技については、指導者にもその経験がないので、経験のある指導者をアドバイザーとして招聘するのがいいと思う。
- ・日本のトップアスリートについても外国を転戦することで力をつけている。国体レベルに落とし込むと、県外練習が重要である。
- ・オリンピックに向けた強化費について、2年前（2019年）から選択と集中がされるようになってきている。メダルをとれるところ、とれないところで厳しい評価をし、定期的に強化戦略プランの評価、査定が行われている。
- ・お金をつけて解決できる問題と、そうでない問題がある。組織としての本気度と体制がどの程度かを評価する必要があり、それに応じた支援の配分が必要。
- ・2021年以降、どのようにレガシーを残せるか。2021年に向けて行った強化プログラムが、次の指導者にも引き継げるよう、どこのだれが見てもわかるよう、マニュアルのような形で残していく必要がある。

- ・競技力向上対策本部がめざすところを再認識することが必要。国体で結果を出すことが目的であるならば、日本リーグ等での成績があがってきていることではなく、国体で結果が出るのが重要。国体に対して全力で挑んでくれているのかなど、国体を中心にした評価をする必要がある。
- ・スポーツ指導員、県庁職員、教員、就職支援で獲得した選手の評価、支援が必要。
- ・変革の意思が重要。現状を変える意思や新たな強化の仕組みが必要。
- ・少年種別における強化において、他県に出来て自分たちに出来ない強化はない。
- ・勝てないところ、勝つ気のないところに強化費を配分する必要はないのではないかと。



三重県競技力向上対策本部第 1 4 回競技力向上対策委員会に係る概要

令和 2 年 2 月 2 0 日（木）

プラザ洞津 末広の間

○審議事項について

- ・鹿児島国体での結果が三重とこわか国体での結果につながる。予算について、2019 年度は約倍増したが、2020 年度、2021 年度はどうなっていくのか。
- ・2020 年度、競技力向上対策事業費は要望額に対して十分な予算が確保できる見通しである。期待をかけられており、責任もある。
  
- ・オリンピックレベルの選手が東京オリンピックで燃え尽き症候群になる可能性がある。そのケアが必要。また、逆にチャンスでもあると考えられ、他県の選手が東京を離れるきっかけとなる可能性もある。
- ・三重県のオリンピック代表選手について、陸上競技の選手については国体種目では出場することはないだろう。レスリングの選手については、同階級に同レベルの選手も複数名いる。セーリングの選手については、三重とこわか国体の主力選手なので、コミュニケーションをしっかりとりながら、モチベーションを維持していきたい。
- ・残り 1 年の支援となるので、次のオリンピックを目指す選手にとっては条件が合わないかもしれないが、各競技団体とも協力していきたい。
  
- ・オリンピック等強化指定事業の強化指定選手について、国体に出ることが約束されているのか。
- ・多くは三重国体の出場を競技団体でも見込んでいる選手であるが、約束というところまでは出来ていない選手もいる。しっかりと詰めていく必要がある。
- ・三重とこわか国体で活躍が見込めるというのは、もちろん鹿児島国体での活躍も重要になってくる。無駄なお金にならないよう対応していく必要がある。
  
- ・ディレクター配置について、情報分析などの点で三重県は劣っている。どうして負けたのか、何が不足しているのか、ということを分析することが必要であり、そういう観点での活用も考えるべき。冬季競技にはスポーツ指導員が多く出場したが、上手く点数がとれなかった。そういったことをしっかりと分析する必要がある。
- ・ヒアリング等も行っているが、もっとしっかりと分析等を行っていく必要があると考えている。
- ・得点を大幅増加させていくために、どの競技でどのくらい増加させていくのか。そのためにどの事業を活用するのか、ということが紐付けされているのか。

- ・競技ごとの積み上げはある。その得点を獲得するために、スポーツ指導員の配置は必要なところにするようにしている。

## ○協議事項について

「強化戦略プランの評価と国体強化費の配分について」

- ・三重とこわか国体を契機に各競技団体が、自立していく必要がある。そういった意味で、それぞれが自己評価し、PDCAを回していくのは必要である。
- ・団体の自立化は必要である。国体に向けた潤沢な強化費は三重とこわか国体後には減ってしまう。そのときのために、競技団体が競技力を維持していく仕組みを各競技団体には考えて欲しい。昭和50年の三重国体以降も競技力を維持している競技団体はわずか。競技力向上に自立的に取り組む必要がある。
- ・評価項目に「品格」の項目を入れると良い。ただ強いだけではなく、国体のレガシーとして、三重県選手の品格を向上させることも重要である。挨拶等、凡事徹底し、明るくて前向きな雰囲気のような簡単な風土づくりができないか。
- ・事務局としては品格までを意識する余裕がないのが現状である。
- ・県として、何を最も重視しているか。
- ・ハードが残れば、その規模に応じた大きな大会が開け、三重県にトップレベルの選手が来るようになる。そのことにより、三重県の子どもたちに夢や希望を与えることが出来る。
- ・ソフトの面では、三重県の選手が活躍することにより、次世代の子どもたちの憧れとなる。競技力の底上げや裾野の拡大につながる。
- ・見る人、支える人の塊が国体を契機にできあがる。開催県の選手が活躍することにより、地域の人が湧き、一体感が醸成され、三重県のスポーツ振興に役に立ちたいと感じる人が増える。スポーツを通じて地域全体に活力を与えていきたい。
- ・評価シートは競技団体が作成するのか。
- ・競技団体が作成するものであるが、作成するだけでなく、競技団体が、自身の活動を振り返って評価し、現状を把握する必要がある。
- ・自己評価（競技団体、競技担当）したものを第三者（外部の人）が評価することが重要。事務局で評価しているだけでは評価シートは無駄になってしまう。
- ・評価項目において最も重要なことはやはり戦力であると考えている。
- ・高等学校強化指定運動部に対する強化費の配分はついてはどのようにしていくのか。
- ・高等学校強化指定運動部については、今年度と同様、その競技や高校の強化の実情に合わせて配分をしていきたい。

報告事項8  
 令和2年2月20日  
 第14回競技力向上対策委員会決定

令和2年度競技力向上対策事業

	事業名	対象
①	チームみえジュニア育成事業	ジュニア・少年選手
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業	
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	
④	高等学校運動部強化指定事業	
⑤	トップジュニア育成事業	
⑥	女性アスリートタレント発掘・育成事業	
⑦	トップアスリート応援事業	
⑧	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通
⑨	女性アスリートサポート事業	
⑩	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手
⑪	オリンピック等選手強化指定事業	
⑫	トップアスリート就職支援事業	
⑬	スポーツ指導員配置事業	指導者
⑭	ディレクター配置事業	
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	
⑯	競技用具等整備事業	環境整備
⑰	みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発

## チームみえジュニア育成事業 実施方針

令和2年度当初予算【30,000千円】

### 1 目的

三重とわか国体後に少年種別での活躍が期待できる選手を「チームみえジュニア」とする。チームみえジュニアの強化・育成を目指し、その活動を支援することで、長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟の国民体育大会正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体が取り組む、「チームみえジュニア」の活動を支援するため、必要な経費を配分する。
- (2) 強化費の配分については、各競技団体の強化計画等に応じた配分をする。その他、必要に応じてヒアリング等により調整を行う。
- (3) チームみえジュニアの育成・強化に対して実施する強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- |      |           |
|------|-----------|
| 4月   | 強化費の配分額決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援    |

## ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 実施方針

令和2年度当初予算【4,500千円】

### 1 目的

今後の国体等において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会の正式競技で、三重とこわか国体の少年種別での活躍が見込まれるターゲットエイジを育成した実績などを有し、今後も将来の少年種別を担う選手の育成の拠点とすることが見込まれるジュニアクラブ・運動部。

### 3 実施内容

- (1) 強化指定の決定については、別途定める「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、令和2年4月から令和3年3月までの単年度指定とする。
- (3) 全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 4月   | ジュニアクラブ・運動部強化指定の決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援             |

## ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ・運動部強化事業」に係る指定ジュニアクラブ・運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

- ①国民体育大会の正式競技で、全国大会での活躍を目指しジュニア選手の育成・強化を担うジュニアクラブ・運動部。
- ②三重とこわか国体における少年種別での活躍が見込まれるターゲットエイジとなる選手の育成・強化した実績などを有し、今後も将来の少年種別を担う選手の育成・強化の拠点となることが見込まれるジュニアクラブ・運動部。

#### (2) 選考方法

選考委員は、指定候補のジュニアクラブ・運動部が、これまでの国民体育大会での活躍や三重とこわか国体における少年種別の候補となる選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。

報告事項8-2-3  
 令和2年2月20日  
 第14回競技力向上対策委員会決定

令和2年度強化指定ジュニアクラブ・運動部

競技（種目）	ジュニアクラブ・運動部
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校陸上競技部
水泳（飛込）	三重ダイビングクラブ
水泳（A S）	みえA. S. C
テニス	三重グリーンテニスクラブ
ボート	宮川ボートクラブ
体操（競技）	相好体操クラブ
レスリング	いなべレスリングクラブ
ウエイトリフティング	みえウエイトリフティングジュニアクラブ
卓球	松生TTC
	21クラブ
相撲	津相撲クラブ
フェンシング	鳥羽フェンシングクラブ
スポーツクライミング	KO-WALL三重
なぎなた	三重武道館クラブ
ボウリング	鈴鹿ジュニアボウリングクラブ

15クラブ

## チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針

令和2年度当初予算【2,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体における少年種別の選手となる中・高校生及び三重とこわか国体後も活躍が期待できる小・中学生を「チームみえジュニア」として指定する。指定することで選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できる三重とこわか国体における少年種別の選手となる中・高校生及び三重とこわか国体後も活躍が期待できる小・中学生選手とその指導者・保護者とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定証の交付

「指定選手」に対し、三重県競技力向上対策本部長（知事）から、「指定証」を交付する。

#### (2) 研修プログラム（三重とこわか国体における少年種別の選手のみ）

##### ①全体会

○三重とこわか国体の少年種別の選手としての意識醸成を目的とした研修を実施する。

##### ②研修会

〔選手・指導者対象〕

○選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

〔保護者対象〕

○選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

### 4 年間計画

6～7月 「指定証」交付式、研修会の開催



## 高等学校運動部強化指定事業 実施方針

令和2年度当初予算【30,000千円】

### 1 目的

国民体育大会などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

次のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

- ①指定期間は、三重県競技力向上対策基本方針に基づき、次の3期とする。
  - ・第1期：平成26年度～平成27年度（基盤・体制づくり期）
  - ・第2期：平成28年度～平成30年度（育成期）
  - ・第3期：令和元年度～令和3年度（躍進期）
- ②指定を受けた高等学校運動部は、原則として、最終年度まで継続して指定し、各期の最終年度に、見直すこととする。
- ③指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。
- ④硬式野球競技については、単年度の指定とする。

#### (2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議したうえで、次のように指定する。

- ①指定候補について、活動状況や国体強化の中心となる位置づけ、ターゲットエイジの活動が見込める運動部かを判断する。  
なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。
- ②指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。

なお、硬式野球競技については、県高野連から、令和2年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部の推薦を受け、対策本部が県教委と協議したうえで、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定する。

③強化活動の支援の配分については、指定決定後、競技力向上対策本部が活動状況、令和2年度の国民体育大会における有力選手の状況、ターゲットエイジの状況を調査したうえで令和2年4月に決定する。

### (3) 補助対象

・強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

## 4 年間計画

2月下旬	強化指定運動部の決定
4～5月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

## 高等学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領

### 1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 2 推薦基準

- (1) 三重とこわか国体を中心に活躍するトップアスリートの育成に向けて、少年種別における強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 硬式野球競技については、令和 2 年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部であること。

### 3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」という。）に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、実態として男女別々に活動している場合は男子・女子を区分し、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。
- (5) 硬式野球競技については、県高野連が 1 部を上限に、対策本部に推薦する。

令和2年度高等学校強化指定運動部

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	宇治山田商業	
		四日市工業	松阪商業
		近大高専	
		伊賀白鳳	
2	水泳（競泳）	皇學館	
		津田学園	
		尾鷲	
		—	—
2	水泳（飛込）	—	—
		四日市中央工業	—
		稻生	—
2	水泳（水球）	—	—
		—	—
2	水泳（AS）	—	—
		—	—
3	サッカー	四日市中央工業	—
4	テニス	四日市工業	四日市商業
5	ボート	相可	
6	ホッケー	—	津商業
		—	白子
7	ボクシング	久居	—
		明野	—
8	バレーボール	松阪工業	津商業
		—	三重
9	体操（競技）	暁	
		—	—
9	体操（新体操）	—	—
		—	—
10	バスケットボール	四日市工業	四日市商業
		津工業	いなべ総合学園
11	レスリング	いなべ総合学園	
		朝明	—
12	セーリング	津工業	
13	ウエイトリフティング	亀山	
		四日市工業	—
		四日市中央工業	—
14	ハンドボール	四日市工業	四日市商業
15	自転車	朝明	—
16	ソフトテニス	三重	三重
17	卓球	高田	高田
		白子	白子
18	相撲	宇治山田商業	—
19	馬術	高田	
20	フェンシング	海星	津東
21	柔道	四日市中央工業	高田
		名張	名張
22	ソフトボール	四日市工業	伊勢学園
		—	津商業
23	バドミントン	伊勢工業	皇學館
		暁	—
24	弓道	松阪工業	亀山
25	ライフル射撃	久居	
26	剣道	三重	白子
27	ラグビーフットボール	朝明	四日市メリノール学院
		四日市工業	—
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	桑名西	
30	アーチェリー	四日市四郷	
31	空手道	—	四日市商業
32	銃剣道	皇學館	—
33	クレー射撃	—	—
34	なぎなた	—	稻生
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	津田学園	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	高田	—
41	硬式野球	近大高専	—

計

## トップジュニア育成事業 実施方針

令和2年度当初予算【7,500千円】

### 1 目的

県民からの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学校及び高等学校に在籍する選手および本県出身の19歳以下の選手\*<sup>1</sup>とする。

### 3 実施内容

#### (1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生、高校生および本県出身の19歳以下の選手\*<sup>1</sup>を強化指定する。

#### (2) 補助対象

指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設利用料、大会参加料、消耗品費、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
6月	第1次強化指定選手の推薦・選定・決定
9月	第2次強化指定選手の推薦・選定・決定

\*その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」  
指定候補選手推薦要領

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手および本県出身の19歳以下の選手\*<sup>1</sup>とする。

2 推薦基準

全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準のいずれかを満たしている選手とする。

【中・高校生枠】(本県の中学校および高等学校に在籍する選手)

- (1) 令和元年度もしくは令和2年度の全国大会\*<sup>2</sup>で優勝、または、令和元年度の国際大会\*<sup>3</sup>で3位入賞以上の実績があり、令和2年度に日本代表として国際大会\*<sup>3</sup>への出場が決定(内定)している選手。
- (2) 団体競技は、令和2年度に日本代表として、国際大会\*<sup>3</sup>に出場するなど、顕著な活躍が見られる選手。
- (3) この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

【U20枠】(本県の中学校もしくは高等学校を卒業した19歳以下の選手\*<sup>1</sup>)

- (1) 令和元年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた選手。
- (2) 令和元年度に開催された全国高等学校総合体育大会および国民体育大会において優勝した選手。
- (3) 令和元年度に開催された国際大会\*<sup>3</sup>で3位以上の成績を収めており、かつオリンピックや三重とこわか国体において入賞が狙える。
- (4) この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

\* 1) その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。但し、JOCエリートアカデミー出身者は、本県の小学校を卒業した者とする。

\* 2) 全国大会

- ① 国民体育大会
- ② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ③ 全国高等学校総合体育大会  
全国高等学校選抜選手権大会
- ④ ①・②・③と同じレベルと認められる大会

\* 3) 国際大会

- ① 世界ジュニア・ユース大会、  
アジアジュニア・ユース大会
- ② ①と同じレベルと認められる大会

### 3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たした選手を、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目は、上記2の推薦基準を満たした選手を、所属する団体（クラブチーム等）が、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

### 4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

女性アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針

令和2年度当初予算【10,000千円】

1 目的

優れた資質を有する女子小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

女子ラグビーフットボール競技、女子自転車競技の2競技とする。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

8月	タレントの募集開始（～11月上旬）
11月	オーディション実施
12月	選考部会、プログラム部会、運営委員会 「年間事業計画の決定」「タレントの決定」
1月	認定証授与式
	※週2～3回程度の専門プログラムの継続実施
	※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施



## トップアスリート応援事業「三重県民共済基金」 実施方針

令和2年度当初予算【3,600千円】

### 1 目的

三重とこわか国体をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

### 2 対象

令和元年度に指定した選手で、三重とこわか国体で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むとともに、三重とこわか国体や今後の三重県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待できる選手。

### 3 実施内容

#### 給付金の給付

給付金の給付は、三重県民共済生活協同組合からの寄付金による「トップアスリート応援基金」を財源に実施する。各認定選手への給付は月額制とし、令和4年3月まで3年間給付する。（給付期間の延長について令和2年3月要綱改正予定）

### 5 年間計画

4月	給付継続
3月	活動報告を確認

## トップアスリート応援事業 「とこわか募金」実施方針

令和2年度当初予算【3,800千円】

### 1 目的

三重とこわか国体をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むとともに、三重とこわか国体や今後の本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、転居をともなって令和2年4月に県内の高等学校に入学した選手。

### 3 実施内容

#### (1) 対象選手の推薦募集

各競技団体は、対象選手を三重県競技力向上対策本部に設置する選考委員会(以下、「選考委員会」という)に別紙推薦要領に基づき推薦することができる。ただし、県内出身選手の推薦は男女各1名を限度とする。

#### (2) 対象選手の選考

選考については、各競技団体からの提出書類を基に、三重県競技力向上対策本部に設置する選考委員会において行う。なお、選考委員については、三重県競技力向上対策本部事務局が委嘱する。

#### (3) 給付金の給付

給付金の給付は、県内企業等からの寄付金を財源に実施する。給付金は月額制とし、令和2年4月から3年間給付する。

### 5 年間計画

令和2年3月	競技団体を通じて対象選手の推薦 選考委員会において対象選手を選考
4月	認定証授与式 給付開始
令和3年3月	活動報告を確認

## 令和2年度トップアスリート応援事業「とこわか募金」指定選手推薦要領

### 1 対象

三重とこわか国体で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むとともに、三重とこわか国体や今後の本県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待できる選手で、転居をともなって令和2年4月に三重県内の高等学校に入学する選手。

### 2 推薦基準

三重とこわか国体をはじめとする全国大会において少年種別の中心選手として、活躍が期待できる選手とする。

- (1) 三重とこわか国体で実施される少年種別の正式競技の選手であり、競技力向上対策本部が指定する強化指定高等学校(運動部)に転居をともなって令和2年4月に入学する選手。
- (2) 三重とこわか国体における目標達成に向けて、各競技団体に必要な選手であり、今後の競技力向上が見込める選手。
- (3) 三重とこわか国体に向けて意欲的に取り組むことができる選手。

### 3 募集人数

10名程度

### 4 推薦方法

各競技団体は、上記2の推薦基準を満たす選手を、選考委員会に推薦することができる。

### 5 その他

選手の選考については、各競技団体から推薦があった選手の中から、選考委員会が行う。

チームみえ国体選手強化事業 実施方針

令和2年度当初予算【224, 231千円】

1 目的

躍進期の目標である天皇杯得点1,400点～1,800点、天皇杯10位以内を達成するとともに三重とこわか国体での天皇杯・皇后杯獲得を確実なものとするため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体の強化計画書及び競技団体ヒアリングを基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) A・B群に区分された競技種別に対して、鹿児島国体における競技成績の見込や強化計画等に基づき、重点的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) C・D群に区分された競技種別に対して、三重とこわか国体に向けた強化計画や年度目標等に基づき、計画的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (4) 支援期間は一年間とするが、東海ブロック大会後、本国体後に必要に応じて強化計画の見直しを行う。
- (5) 各競技団体は、三重とこわか国体に向けた各年次の目標が達成できるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (6) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

- |       |   |
|-------|---|
| 4月    | 配分額の通知、交付申請書の提出<br>実施事業の支援（4月～東海ブロック大会～本国体） |
| 8～10月 | 国体の競技成績による強化計画の見直し<br>実施事業の支援（本国体～3月）       |

※ 区分について

群	区分の目安	取組
A群	安定して得点しており、三重とこわか国体まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を行います。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、鹿児島国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を行います。
C群	三重とこわか国体で確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	三重とこわか国体に向けた計画的な取組を行います。
D群	強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	強化体制を整え、三重国体で勝負できる取組を行います。

## 女性アスリートサポート事業 実施方針

令和2年度当初予算【700千円】

### 1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体及びその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。

### 3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

### 4 年間計画

5月～2月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を実施

## 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

令和2年度当初予算【28,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、令和3年に各競技の成年種別で中心となり、且つ令和2年の鹿児島国体以降に活躍が期待できるチームの指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム等（以下、「チーム」という。）とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

令和2年4月から令和3年3月までの期間とする。

#### (2) 指定基準

三重とこわか国体に向けて、競技団体が強化の中心として位置づけ、国民体育大会での活躍が期待できるチーム。ただし、次の①～③に該当するチームで、競技団体が主体となるチームを除く。

①団体競技（チームスポーツ）は、国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場するチーム構成において、中心となる選手が在籍しているチーム。

②団体競技（チームスポーツを除く）は、団体チームとして大会に出場しているチーム。

③個人競技は、複数の選手が在籍するチーム。

#### (3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

#### 【A強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、令和2年の鹿児島国体において入賞できるチーム。

#### 【B強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、令和2年の鹿児島国体において入賞が期待できるチーム。

#### 【C強化指定】

①三重とこわか国体で中心となり、三重とこわか国体において入賞が期待できるチーム。

②国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、前年度に新たにチーム結成を行い、本県代表として出場するチーム。

#### (4) 補助対象

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

5月 指定証交付

随時 強化活動支援

報告事項 8-10-2  
 令和2年2月20日  
 第14回競技力向上対策委員会決定

令和2年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定チーム

【A強化指定】

	チーム名	競技名
1	NTN陸上競技部	陸上競技
2	伊賀FCくノ一三重	サッカー
3	三重バイオレットアイリス	ハンドボール
4	名張乗馬クラブ	馬術
5	北勢ライディングファーム	馬術
6	PEARLS	ラグビーフットボール
7	相好体操クラブ	体操
8	三重県庁クラブ	ソフトボール

【B強化指定】

	チーム名	競技名
9	AGF陸上競技部	陸上競技
10	デンソー女子陸上長距離部	陸上競技
11	株式会社安永弓道部	弓道
12	エクセディ卓球部	卓球
13	三重県警察	剣道、ライフル射撃
14	ヴィアティン三重	サッカー、バレーボール
15	FC.ISE-SHIMA	サッカー
16	鈴鹿ポイントゲッターズ	サッカー
17	みえ高田VCsala	バレーボール
18	名鉄乗馬クラブ・クレイン東海	馬術



## オリンピック等選手強化指定事業 実施方針

令和2年度当初予算【2,800千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、オリンピック競技大会及び三重とこわか国体等に向けた成年選手の競技力向上を推進することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体における正式競技に取り組んでいる20歳以上の大学生（大学院生を含む）で、次に掲げる条件を満たす者とする。

- (1) 「チームみえ」の一員として、三重とこわか国体での活躍が特に期待できる者
- (2) オリンピック競技大会や世界選手権大会等の世界大会での活躍が期待できる者

ただし、オリンピック競技大会の正式競技以外の競技に取り組んでいる選手については、条件（1）のみを満たすこととする。

### 3 実施内容

- (1) 強化指定選手の決定については、別途定める「オリンピック等選手強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、令和2年4月から令和3年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

5月 指定証交付  
随時 強化活動支援

## オリンピック等選手強化指定事業 選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「オリンピック等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

選考は、「オリンピック等選手強化指定事業実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、選考にあたっては、次の点に留意するものとする。

なお、大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の指定チームに所属する者、企業等に勤務している者については対象外とする。

#### 【継続指定枠】

令和元年度に指定を行った者で、本県代表選手の一員として令和2年鹿児島国体（以下、「鹿児島国体」という。）以降の大会において入賞が見込める者

#### 【新規指定枠】

- ① 令和元年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた者で、三重県代表選手の一員として鹿児島国体以降の大会において入賞が見込める者
- ② 上記大会より上位の大会において、顕著な成績を収めた者についても選考の対象とする。

#### (2) 選考方法

選考委員は、強化指定候補選手について、三重とこわか国体やオリンピック競技大会等での活躍が期待される強化指定候補選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。

なお、決定には、選考委員の過半数の同意を必要とする。

報告事項8-11-3  
 令和2年2月20日  
 第14回競技力向上対策委員会決定

令和2年度オリンピック等選手強化指定事業に係る強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	専門競技	指定枠
1	奥野 春菜	21 (4年)	至学館大学	レスリング	継続
2	山門 正宜	26 (D3年)	名古屋産業大学院	ウエイトリフティング	継続
3	山本 真鼓	23 (M2年)	名古屋産業大学院	ウエイトリフティング	継続
4	阪本 祐也	20 (3年)	東洋大学	水泳(競泳)	新規
5	岩野 夏帆	20 (3年)	秀明大学	水泳(水球)	新規
6	基山 仁太郎	20 (3年)	日本体育大学	レスリング	新規
7	花井 瑛絵	20 (3年)	至学館大学	レスリング	新規
8	内田 理久	21 (4年)	早稲田大学	ソフトテニス	新規

※年齢・学年は令和2年4月1日現在

## トップアスリート就職支援事業 実施方針

令和2年度当初予算【14,500千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）に対し、県内企業等への就職支援を行い、成年種別における競技得点を確保することで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

### 2 対象選手

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。  
※成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリート等を採用する意思のある企業等とする。

### 4 実施内容

- (1) 三重とこわか国体に向けた成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリート等の採用依頼を行う。
- (2) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (3) 競技団体から推薦のあったトップアスリート等に対し、書類審査を行う。
- (4) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリート等に対し、面談を行う。
- (5) 企業及びトップアスリート等に有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (6) 企業及びトップアスリート等に推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (7) 採用選考の調整を行う。
- (8) トップアスリート等が培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

### 5 年間計画

4月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

## スポーツ指導員配置事業 実施方針

令和2年度当初予算【298,465千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣することで、本県選手の競技力向上を図ること、また、トップアスリート等として成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいるトップアスリート等で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は3位以上、団体競技は8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。  
※選手としての成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 三重県体育協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

### 4 年間計画

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 4月  | 協定書の締結               |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

## ディレクター配置事業 実施方針

令和2年度当初予算【6,000千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍実績のある指導者をディレクターとして競技団体に配置し、成年種別の戦力補強を計画的に推進することで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体における正式競技の指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として成年種別の戦力補強を計画的に推進する能力を有する者とする。

全国・国際スポーツ大会で活躍実績のある指導者で、成年選手獲得に係る指導・助言や成年選手の推薦、強豪大学や実業団チームとのネットワークづくり等の業務にあたることのできる者

### 3 実施内容

- (1) ディレクターの採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 三重県体育協会は、ディレクターの業務管理を行うとともに、各競技団体における成年種別の戦力補強を計画的に推進するため、ディレクターを競技団体が実施する強化練習や合宿、会議等に派遣する。
- (3) ディレクターの活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

### 4 年間計画

- |     |                          |
|-----|--------------------------|
| 4月  | 契約書の締結                   |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿、会議などに派遣 |

報告事項 8-14-2  
令和2年3月19日  
書面による委員協議により決定

令和2年度ディレクター配置事業に係るディレクター

	名 前	所 属	専 門 競 技
1	草薙 健太	中京大学	水泳（競泳）
2	塩田 義法	日本体育大学	水泳（水球）
3	植田 実	びわこ成蹊スポーツ大学	テニス
4	記虎 敏和	PEARLS	ラグビーフットボール
5	尾野藤直樹	日本カヌー連盟	カヌー
6	青柳 徹	日本体育大学	スケート

チームみえ・コーチアカデミーセンター事業 実施方針

令和2年度当初予算 【64,475千円】

1 目的

三重とこわか国体における天皇杯・皇后杯の獲得やその後の安定的な競技力の確保のため、少年種別の競技力向上にむけた指導者の指導力の向上や意識改革を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図ることを目的とする。

2 対象

公益財団法人三重県体育協会加盟団体のうち国民体育大会の正式競技で、三重とこわか国体の監督等主たる指導者として競技団体の長より認定された者とする。

3 実施内容

(1) みえコーチアカデミー

コーチとしての資質向上に加え、コーチデベロッパーとして役割を学ぶ。

- ①三重とこわか国体に向けた強化戦略プランに対して、HW（ホームワーク）やブラッシュアップ研修による進捗と検証
- ②国内トップクラスの講師を招聘した研修やディスカッション等
- ③県外研修による優秀指導者実践観察等
- ④県内指導者の運動観察・実践指導・ディスカッション及び有識者による指導助言
- ⑤プレゼンテーション及びディスカッション
- ⑥各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言（カンファレンス）

(2) みえマルチサポートシステム

実践指導における指導体制上の課題の解決に向けた様々なサポートの実施と検証

(3) みえコーチングコミュニティ

強化戦略プランの進捗や成果、最新の情報等の相互発信と共有

4 年間計画

4月～	みえマルチサポートシステムによる支援
5月	アカデミーⅠ
7月	アカデミーⅡ
11月	アカデミーⅢ
2月	アカデミーⅣ
年2回程度	県内研修 運動観察・実践指導
年1回	県外研修
通年	ホームワークによるカンファレンス



## 競技用具等整備事業 実施方針

令和2年度当初予算【50,823千円】

### 1 目的

三重とこわか国体に向けて競技力向上を図るとともに、大会終了後の全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

### 2 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民体育大会における正式競技とする。

### 3 整備対象競技用具等

- (1) 競技力向上に必要と認められるもの。
- (2) 選手が大会等で直接的に使用するもの。
- (3) 高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- (4) 競技用具等が整備されておらず、新たに整備する必要があるもの。
- (5) 既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。
- (6) 競技力向上のために数が不足しているもの。

### 4 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備を希望する競技団体は県に申請を行う。
- (2) 県は競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、選定委員会において適当と認められた競技用具等を購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を原則負担する。

みえのアスリート応援・発信事業 実施方針

令和2年度当初予算【3,500千円】

1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成することを目的とする。

2 実施内容

(1) 広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

[配布先]

- ・県内の小・中・高等学校の児童生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

(2) チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・県代表選手及びスタッフユニフォーム等
- ・応援用グッズ等

3 年間計画

6月	「輝くみえのアスリートNEWS」発行
5～9月	チームみえ啓発グッズ等作成
11月	「輝くみえのアスリートNEWS」発行

令和2年度暫定予算の専決処分

## 令和2年度暫定予算(令和2年4月1日～6月1日)

## 1 収入

(単位:千円)

科目	令和2年度 当初予算案	暫定予算	備考
負担金	354,314	248,836	三重県負担金
計	354,314	248,836	

## 2 支出

(単位:千円)

科目	令和2年度 当初予算案	暫定予算	備考
事業費	会議費	4,393	1,800 対策本部会議費等
	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	2,000	2,000 6月開催にかかる準備経費
	トップジュニア育成事業	7,500	600 5月末までの交付決定見込額
	チームみえ国体選手強化事業	224,231	224,231 4月1日付け県スポーツ協会委託契約
	女性アスリートタレント発掘・育成事業	10,000	1,200 年間保険料 4,5月の教育・育成プログラム
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	28,000	6,000 5月末までの交付決定見込額
	オリンピック等選手強化指定事業	2,800	600 5月末までの交付決定見込額
	トップアスリート応援事業	7,400	1,300 5月末までの給付見込額等
	みえのアスリート応援・発信事業	3,500	100 広報誌(6月発行)発注
	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	64,475	11,000 ブラッシュアップ研修(6月) マルチサポート(4, 5月)等
事務局費	15	5	
計	354,314	248,836	



# 審 議 事 項

## 令和元年度事業報告書（案）

## 1. 会議の開催と審議、協議の内容について

開催年月日	会議名	主な審議、協議内容
平成31年 4月16日	第7回本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員及び委員等の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過（報告）</li> <li>・第11回、第12回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会 総合成績（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策委員会における審議決定事項（報告）</li> <li>・平成30年度事業報告、収支決算</li> <li>・2019年度事業計画、収支予算</li> </ul>
令和元年 10月28日	第7回ジュニア・少年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）の結果（報告）</li> <li>・2019年度の競技力向上対策事業（ジュニア・少年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上対策事業の取組について（協議）</li> </ul>
10月30日	第7回企業等連絡調整専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）の結果（報告）</li> <li>・2019年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上対策事業の取組について（協議）</li> </ul>

11月1日	第7回成年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第74回国民体育大会（いきいき茨城ゆめ国体）の結果（報告）</li> <li>・2019年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上対策事業の取組について（協議）</li> </ul>
11月21日	第13回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過（報告）</li> <li>・2019年度競技力向上対策事業の進捗状況（報告）</li> <li>・競技力区分による得点見込と獲得得点及び対策関連事業執行等（報告）</li> <li>・第74回国民体育大会に係る総合成績（報告）</li> <li>・第74回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上の取組について（協議）</li> </ul>
令和2年 2月20日	第14回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県競技力向上対策本部等に係る開催経過（報告）</li> <li>・2019年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果（報告）</li> <li>・令和2年度競技力向上対策事業（案）について（審議）</li> <li>・躍進期における競技力向上の取組について（協議）</li> </ul>

2. 選手の育成・強化について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成31年4月 ～ 令和2年3月	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	将来活躍が期待できるジュニアアスリート960名を「チームみえジュニア」として指定し、選手や指導者・保護者への研修会を実施 ・チームみえジュニア指定証交付式 令和元年6月30日（日） ・鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
令和元年6月 ～ 令和2年3月	トップジュニア育成事業	世界大会等で活躍するジュニア選手18名（中高生枠：15、U20枠：3）を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援
平成31年4月 ～ 令和2年3月	チームみえ国体選手強化事業	茨城国体において男女総合成績10位台獲得と総合得点1,400～1,800点をめざし、入賞が期待できる競技団体の強化活動を支援
平成31年4月 ～ 令和2年3月	女性アスリートタレント発掘・育成事業	優れた資質のあるジュニア選手を発掘し、教育プログラムや専門プログラムを実施し、世界大会で活躍する選手を育成
平成31年4月 ～ 令和2年3月	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	[ A強化指定チーム ] ・NTN陸上競技部 ・伊賀フットボールクラブくノ一 ・相好体操クラブ ・三重バイオレットアイリス（ハンドボール） ・名張乗馬クラブ ・北勢ライディングファーム（馬術） ・PEARLS（ラグビーフットボール）
		[ B強化指定チーム ] ・AGF陸上競技部 ・デンソー女子陸上長距離部 ・株式会社安永弓道部 ・エクセディ卓球部



		[ C強化指定チーム ] ・ヴィアティン三重 (バレーボール) ・みえ高田VCsala ・三重県警察 (ライフル射撃) ・三重県警察 (剣道) ・名鉄乗馬クラブ・クレイン東海 (馬術) ・三重県庁クラブ (ソフトボール)
平成31年4月 ～ 令和2年3月	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	世界大会で活躍が期待できる成年選手7名を強化指定し、強化活動を支援

### 3. 指導者の養成について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成31年4月 ～ 令和2年3月	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	2期生19名を対象に、三重とこわか国体及び安定期における競技力の確保をめざし、指導者の指導力の向上と指導体制を構築する事業を推進。また、1期生22名を対象にブラッシュアップミーティング(1期生)を実施。 ・スタートアップミーティング ・キャンプI、II ・コンプリートミーティング ・ブラッシュアップミーティング(1期生) ・県外研修、県内研修 ・みえマルチサポートによるサポートスタッフの派遣

### 4. 広報・顕彰について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成31年4月 ～ 令和2年3月	みえのアスリート応援・発信事業	・広報紙「輝くみえのアスリートNEWS」の配布(各種会議、中学校、イベント配布) 「三重から発信!未来のトップアスリート応援募金」チラシの配布(各種企業・団体、各種会議、イベント配布)

## 令和元年度 収支決算書(案)

## 1 収入

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	備考
負担金	297,706,000	900,000	298,606,000	278,598,783	△ 20,007,217	三重県負担金
収入合計	297,706,000	900,000	298,606,000	278,598,783	△ 20,007,217	

## 2 支出

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	備考
会議費	3,893,000		3,893,000	3,795,092	△ 97,908	
チームみえジュニア指定、保護者・研修プログラム事業	1,500,000		1,500,000	1,455,529	△ 44,471	
トップジュニア育成事業	4,500,000	900,000	5,400,000	5,387,544	△ 12,456	
チームみえ国体選手強化事業	189,231,000	△ 3,670,000	185,561,000	184,761,551	△ 799,449	
女性アスリートタレント発掘・育成事業	10,000,000		10,000,000	6,311,144	△ 3,688,856	海外プログラムの中止等
大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	15,000,000	3,670,000	18,670,000	18,670,000	0	
東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	2,300,000		2,300,000	2,298,012	△ 1,988	
トップアスリート応援事業	3,800,000		3,800,000	3,781,704	△ 18,296	
みえのアスリート応援・発信事業	3,500,000		3,500,000	2,882,944	△ 617,056	
チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	63,967,000		63,967,000	49,241,763	△ 14,725,237	マルチサポート事業の減等
事務局費	15,000		15,000	13,500	△ 1,500	
支出合計	297,706,000	900,000	298,606,000	278,598,783	△ 20,007,217	

## 監 査 報 告

令和元年度収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。


令和 2 年 5 月 21 日

監 事

紀平益美 

令和 2 年 5 月 21 日

監 事

天野晴夫 

三重県競技力向上対策本部

本部長 鈴木 英敬 様

## 令和2年度事業計画書（案）

### 1 会議の開催について

- (1) 本部会議
- (2) 競技力向上対策委員会
- (3) 専門委員会
  - ① ジュニア・少年選手強化専門委員会
  - ② 成年選手強化専門委員会
  - ③ 企業等連絡調整専門委員会

### 2 選手の育成・強化事業について

- (1) ジュニア・少年選手
  - ① チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業
  - ② トップジュニア育成事業
  - ③ 女性アスリートタレント発掘・育成事業
  - ④ トップアスリート応援事業
- (2) 少年選手・成年選手共通
  - ① チームみえ国体選手強化事業
- (3) 成年選手
  - ① 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業
  - ② オリンピック等競技大会等選手強化指定事業

### 3 指導者の養成事業について

- (1) チームみえ・コーチアカデミーセンター事業

### 4 広報啓発について

- (1) みえのアスリート応援・発信事業

令和2年度競技力向上対策事業について

	事業名	対策本部事業	対象
①	チームみえジュニア育成事業		ジュニア・少年選手
②	ジュニアクラブ・運動部強化指定事業		
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	○	
④	高等学校運動部強化指定事業		
⑤	トップジュニア育成事業	○	
⑥	女性アスリートタレント発掘・育成事業	○	
⑦	トップアスリート応援事業	○	
⑧	チームみえ国体選手強化事業	○	少年・成年選手共通
⑨	女性アスリートサポート事業		
⑩	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	○	成年選手
⑪	オリンピック等選手強化指定事業	○	
⑫	トップアスリート就職支援事業		
⑬	スポーツ指導員配置事業		指導者
⑭	ディレクター配置事業		
⑮	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	○	
⑯	競技用具等整備事業		環境整備
⑰	みえのアスリート応援・発信事業	○	広報啓発

## 令和2年度 競技力向上対策本部収支予算書(案)

## 1 収入

(単位:千円)

科目	前年度 当初予算 (A)	本年度 当初予算案 (B)	比較増減額 (B-A)	備考
負担金	297,706	354,314	56,608	三重県負担金
計	297,706	354,314	56,608	

## 2 支出

(単位:千円)

科目	前年度 当初予算 (A)	本年度 当初予算案 (B)	比較増減額 (B-A)	備考
会議費	3,893	4,393	500	
チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	1,500	2,000	500	
トップジュニア育成事業	4,500	7,500	3,000	
チームみえ国体選手強化事業	189,231	224,231	35,000	
女性アスリートタレント発掘・育成事業	10,000	10,000	0	
大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	15,000	28,000	13,000	
オリンピック等選手強化指定事業	2,300	2,800	500	
トップアスリート応援事業	3,800	7,400	3,600	
みえのアスリート応援・発信事業	3,500	3,500	0	
チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	63,967	64,475	508	
事務局費	15	15	0	
計	297,706	354,314	56,608	

そ の 他  
(情報共有事項)





## 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備状況について

三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功に向け、会場地市町や競技団体等、関係者と緊密に連携しながら、「オール三重」で開催準備を進めています。

### 1 三重とこわか国体・三重とこわか大会の概要

	三重とこわか国体	三重とこわか大会
正式名称	第76回国民体育大会	第21回全国障害者スポーツ大会
開催期間	令和3年 9月25日(土)～10月5日(火) 〔会期前実施競技 9月4日(土)～9月12日(日)〕	令和3年 10月23日(土)～10月25日(月)
開・閉会式	開会式：令和3年9月25日(土) 閉会式：令和3年10月5日(火) 会 場：三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場	開会式：令和3年10月23日(土) 閉会式：令和3年10月25日(月) 会 場：三重交通G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場
実施競技	正式競技：37競技(19市町) 特別競技：1競技(3市) 公開競技：5競技(5市町) デモンストラーションスポーツ ：32競技(20市町) ※県内29市町で開催	個人競技：7競技(4市町) 団体競技：7競技(6市町) オープン競技：2競技(1市)
主な役割 分担	県：総合開・閉会式の準備、運営 市町：各競技会の準備、運営	県：開・閉会式及び各競技会の準備、 運営

### 2 主な開催準備状況

#### (1) 推進体制

平成24年1月、日本体育協会(現日本スポーツ協会)理事会において、第76回国民体育大会(三重とこわか国体、以下「国体」という。)の三重県での開催の内々定を得て、同年8月、県、市町、関係団体等で構成する国体三重県準備委員会を設立しました。

〔主な取組〕	平成24年度 国体準備委員会を設立、開催基本方針、広報基本方針を策定
	平成25年度 開催準備総合計画、広報基本計画を策定 開・閉会会場選定を開始
	平成27年度 開催基本構想を策定

また、平成28年7月の国体開催の内定を受けて、同年11月、第21回全国障害者スポーツ大会(三重とこわか大会、以下「大会」という。)の三重県での開催に向けた大会三重県準備委員会を設立しました。

〔主な取組〕	平成28年度 大会準備委員会を設立、開催基本方針を策定
	平成29年度 開催準備総合計画を策定、会場地選定を開始

平成 30 年 7 月、両大会の開催が正式決定されたことを受け、両準備委員会を三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会に改組し、両大会一体となった広報や県民運動、会場整備など開催準備に取り組んでいます。

## (2) 両大会の開・閉会式

### ①両大会の開・閉会式の会場整備

平成 26 年 9 月、国民体育大会施設基準等に基づき、国体の総合開・閉会式会場を三重交通G スポーツの杜伊勢 陸上競技場に決定するとともに、平成 27 年度から大規模改修を行い、平成 28 年 4 月に補助競技場の供用を開始し、平成 29 年 10 月にメイン競技場の供用を開始しています。

### ②式典準備

三重らしさを感じられる式典の実施に向けて、平成 30 年度にコンセプトや演技等にかかる基本的な考え方を示した「式典基本計画」を策定し、令和元年度には式典運営、音楽、演技、炬火等の分野毎の内容をまとめた「式典実施計画」を策定しました。

また、開・閉会式には、県内外から多くの選手や役員、観覧者が参加することから、会場における仮設物の配置や選手、観覧者の動線などに関する会場設計を進めるとともに、宿泊や輸送等についての検討・調査を行うなど、準備に取り組んでいます。

## (3) 両大会の競技会

県、会場地市町、競技団体等の役割分担を決めたうえで、市町や競技団体の意向が合致しているかなどの基準により、会場地の選定を開始し、平成 30 年 3 月に国体の全正式競技の会場地を、平成 31 年 3 月に両大会の全実施競技の会場地の選定を終えました。

併せて、平成 27 年に「市町競技施設整備補助金」を創設し、市町による会場整備を支援するとともに、両大会の競技役員の養成や競技用具の整備についても計画的に取り組んでいます。

## (4) 広報・県民運動

両大会を県民力を結集した大会とするためには、県民の皆さんの両大会への理解と協力が必要です。そのため、まずは両大会を知っていただくことを目標に取組をスタートし、次に居住地でどのような競技が行われるかの理解を深め、さらに自発的に協力・参加いただける仕組みである県民運動（とこわか運動）の展開に取り組んでいます。

〔主な取組〕	平成 25 年度	広報基本計画を策定
	平成 27 年度	愛称「三重とこわか国体」、スローガン「ときめいて人 かがやいて未来」を決定 マスコットキャラクターのデザインを決定
	平成 28 年度	マスコットキャラクターの愛称「とこまる」を決定
	平成 29 年度	イメージソング「未来に響け」を決定 「とこわかダンス」を制作





# 三重ととわか国体

第76回国民体育大会 2021年 9月25日(土)~10月5日(火)

ときめいて人 かがやいて未来 2021

# 三重ととわか大会

第21回全国障害者スポーツ大会 2021年 10月23日(土)~10月25日(月)

